

令和4年度

事業報告

社会福祉法人 緑会

緑会 理念

仁 愛	家族の身になって病める人の心を大切にする
信 頼	信頼されるに足る知識と技術を持つよう努力する
貢 献	医療・保健・福祉を通じて地域社会に貢献する

令和4年度テーマ

『利用者に寄り添い、支える存在となる』

基本方針

利用者も家族も、安心して暮らせる為に、求められている思いに寄り添い、私たちが持っている技術やサービスを提供するだけでなく、どんな時（感染症や災害など）でも対応できるよう、日頃から準備し、支援できるよう職員一人一人が意識を持って取り組む。

重点目標

- 1 「筋力を落とさない」
 - ・基本能力を測定し、基本動作訓練や運動によって日常生活を改善する
 - ・低栄養の改選と口腔、嚥下機能のリハビリを行う
- 2 認知症・障がいを持つ方への対応
 - ・ユマニチュード（その人らしさ）によるケアの推進
 - ・大切に思っていることを相手にわかるように伝える
- 3 人との関わりを大切にし、サービスを提供する
 - ・周りを観察し、安全・安心を提供する
 - ・利用者、ご家族、地域との信頼関係を構築する

実施施策

1 「筋力を落とさない」ためのサービスの提供

高齢者が要介護状態になる要因は、認知症や高齢化によるフレイル（身体的・精神的・社会的衰弱）、サルコペニア（筋力減少症）、転倒などがあげられる。そうならないためには、状態を把握し、改善、予防するために、その人にあったサービスを提供し、安全・安心して生活が維持できるよう専門職として関係者と連携しながら取り組む。

2 認知症・障がいを持つ方への対応

ケアすることでその人のもつ能力を奪うことなく、ケアを受ける人とケアを行う人とが穏やかにその人の人間らしさを尊重し、機能の維持、向上することができる事を目的に寄り添うことが大切です。

そのためのコミュニケーションとして、「見る」「話す」「触れる」「立つ」という4つの要素から、その人の持つ特性に働きかけ、その人自身を尊重し、大切な存在であることが伝わるような「ユマニチュード」によるケアを推進する。

3 接遇マナーのスキル向上

介護職にとっての接遇マナーとは利用者やご家族の方に安心感を与え、信頼を得るためのツールであり、挨拶や言葉遣い、身だしなみはもちろん、相手の状況や気持ちを理解して寄り添う姿勢が重要となる。全職員が自身の接遇マナーを見直し、プロとして常に意識すべきスキルを身につけて利用者やご家族の方とより良い信頼関係が気付けるよう取組む。

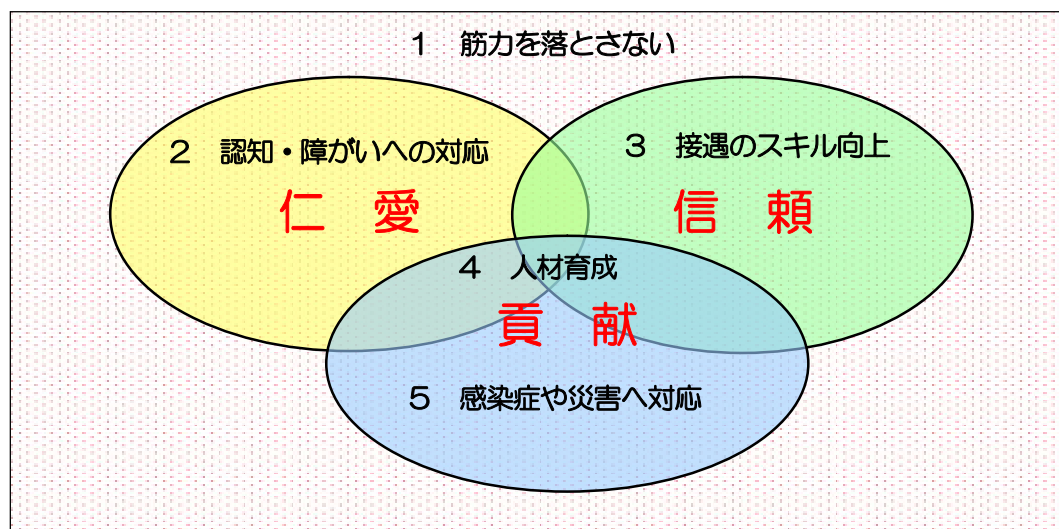
4 人材育成

各部署において職員一人ひとりが目標をもって、役割を果たし、利用者や家族を支える専門職として職員同士が声掛け合い、コミュニケーションを取りながら連携し、お互いが補うことで、安全・安心な場を提供できるよう取組む、

5 感染症や災害への対応力強化

いつ起こるか分からない感染症や災害は、法人だけの問題ではなく、地域社会において大きな影響を与えます。それに対応するためには、日頃からの対策を関係機関と連携しながら、計画的に訓練や研修を行ったり、地域の人たちとつながりを持ったり、顔の見える関係づくりを日頃から構築していく事が大切です。BCP（事業継続計画）に基づき、どんな時でも安全・安心に生活できるよう、私たちの持っている介護や医療などの専門技術を活かして、提供することができるよう対応する。

事業実施図（令和4年度）



1 法人の行う事業（令和5年3月31日現在）

(1) 第1種社会福祉事業

《施設の種類の種類》 特別養護老人ホーム
(指定介護老人福祉施設)
《名称》 介護老人福祉施設 千寿苑
《施設長名》 北山 達朗
《利用定員》 98名

(2) 第2種社会福祉事業

《施設の種類の種類》 老人短期入所事業
(指定短期入所生活介護・指定介護予防短期入所生活介護)

《名称》 介護老人福祉施設 千寿苑
《管理者名》 北山 達朗
《利用定員》 2名

《施設の種類の種類》 老人デイサービス事業
(指定通所介護、七尾市介護予防・日常生活支援総合事業(国基準通所型サービス))

《名称》 デイサービスセンター せんじゅ
《管理者名》 北山 達朗
《利用定員》 25名

《施設の種類の種類》 老人デイサービス事業
(指定通所介護、七尾市介護予防・日常生活支援総合事業(国基準通所型サービス))

《名称》 デイサービスセンター なでしこ
《管理者名》 北山 達朗
《利用定員》 25名

《施設の種類の種類》 認知症対応型老人共同生活介護事業
(指定認知症対応型共同生活介護・指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

《名称》 グループホーム やくしの里
《管理者名》 石垣 初江
《利用定員》 9名

《施設の種類の種類》 小規模多機能型居宅介護事業
(指定小規模多機能型居宅介護・指定介護予防小規模多機能型居宅介護)

《名称》 小規模多機能型居宅介護施設 たかしなの里
《管理者名》 圓山 徹
《利用定員》 25名（内通いサービス15人、泊りサービス9人）

(3) 公益を目的とする事業

《事業名称》 ①外国人技能実習生受入事業
②給食受託事業

(3) 職員数（令和5年3月31日現在）

☆総職員数 130人（男性 30人、女性 100人）

職員平均年齢 51.8歳 平均在職年数 8年7ヶ月

a. 入所・短期入所

総数 79人（嘱託医含まず）

正職員 36人、臨時職員 6人、パートタイム職員 15人、外国人技能実習生 6人
医療法人社団生会からの出向職員 16人

《内 訳》

施設長	1人（常勤兼務）	副施設長	1人（常勤兼務）
事務長	1人（常勤兼務）	事務員	2人（常勤）
生活相談員	2人（常勤）	介護支援専門員	1人（常勤）
医師	1人（嘱託）	機能訓練指導員	1人（常勤）
管理栄養士	3人（常勤1、出向受入2）	栄養士	1人（出向受入）
調理員	13人（出向受入13）	宿直員	3人（パート）
看護職員	8人（常勤5、パート3）		
介護職員	42人（常勤27、パート9、外国人技能実習生6）		

※資格保有者数：看護師 8人、介護福祉士 36人、ホームヘルパー2級・介護初任者研修 7人
（重複所有あり） 介護支援専門員 7人、社会福祉士 3人、社会福祉主事任用 5人

b. デイサービス（せんじゅ・なでしこ）

総数 28人

（正職員 13人、臨時・嘱託職員 4人、パートタイム職員 11人、委託（シルバー人材センター運転手）

《内 訳》

管理長	1人（入所施設長常勤兼務）	生活相談員	3人（常勤2、事務長兼務1）
作業療法士	1名（常勤）	管理栄養士	1人（入所管理栄養士常勤兼務）
看護職員	8人（常勤4、パート4）	介護職員	17人（常勤10、パート7）

※資格保有者数：看護師 7人、准看護師 1人、作業療法士 1名、介護支援専門員 4人、
（重複所有あり） 社会福祉主事任用 3人、介護福祉士 12人、
ホームヘルパー2級・介護初任者研修・介護職員実践者研修 3人

c. グループホーム

総数 6人（正職員 3人、臨時職員 3人）

《内 訳》

管理者	1人（常勤兼務）	看護職員	1人（常勤・介護職員兼務）
介護職員	5人（常勤・兼務含）	計画作成担当者	1人（非常勤入所介護職員常勤兼務）

※資格保有者数：准看護師 1人、介護福祉士 2人、介護支援専門員 1人、
（重複所有あり） ホームヘルパー2級・介護職員初任者研修・介護職員実践者研修 1人

d. 小規模多機能型居宅介護

総数 17人（正職員 2人、臨時・嘱託職員 7人、パートタイム職員 8人）

《内 訳》

管理者	1人（常勤）	看護職員	5人（常勤1、パート4）
介護支援専門員	1人（常勤）	介護職員	10人（常勤6、パート4）

※資格保有者数：介護支援専門員 1人、看護師 3人、准看護師 2人、介護福祉士 2人
（重複所有あり） ホームヘルパー2級・介護職員初任者研修・介護職員実践者研修 6人

2 役員状況（令和5年3月31日現在）

(1) 定款上の定数

理事 6名以上10名以内 監事 2名 評議員 7名以上11名以内

(2) 役員等氏名

理事 6人（任期：令和3年6月10日から令和4年度の最終の評議員会の終了まで）

圓山	寛人(理事長)	圓山	恵子
八野田	実	坪内	明
生實	正	北山	達朗

監事 2人（任期：令和3年6月10日から令和4年度の最終の評議員会の終了まで）

花村	進一	森	光弘
----	----	---	----

評議員 7人（任期：令和3年6月10日から令和6年度の最終の評議員会の終了まで）

櫻井	定宗	堀岡	敏幸	堀	和彦
堀岡	俊子	松下	一清	林	繁壽
稲田	ソト子				

3 理事会・評議員会

《 理 事 会 》

第1回理事会

日 時	令和4年5月26日(木)	午後6時22分から午後8時4分
場 所	介護老人福祉施設千寿苑 地域交流ホール	
出席者数	理事7人	監事2人
議 件	議案第1号 介護保険業務ソフト及びパソコン等機器更新について	
	議案第2号 マットセンサー式見守り支援システムの導入について	
	議案第3号 千寿苑外観木枠取替工事について	
	議案第4号 令和3年度事業報告	
	議案第5号 令和3年度収支決算報告及び監査報告	
	議案第6号 令和4年度収支補正予算(案)について	
	議案第7号 令和3年度に係る定例評議員会の開催日時等(案)について	
	報告第1号 理事長の業務執行状況について	
	1 事業運営上生じた重要事項等の報告	
	①科目間振替報告	
	2 その他	
	①外国人技能実習生について	
	②緑会における新型コロナウイルス感染症の発生状況及び PCR検査等の実施状況報告	
	そ の 他	

第2回理事会

日 時	令和4年6月9日(木)	午後7時45分から午後8時5分
場 所	介護老人福祉施設千寿苑 地域交流ホール	
出席者数	理事6人(欠席1人)	監事2人
議 件	議案第1号 千寿苑外観木枠取替工事について	
	議案第2号 資金運用規程(案)について	
	議案第3号 資金運用規程に基づく現金預金の運用について	
	そ の 他	

第3回理事会

日 時	令和4年11月10日(木) 午後6時25分から午後8時10分
場 所	介護老人福祉施設千寿苑 地域交流ホール
出席者数	理事6人(欠席1人) 監事2人
議 件	議案第1号 定款の改正(案)について 議案第2号 給与規程改正(案)について 議案第3号 マットセンサー式見守り支援システムの導入について 議案第4号 第2次補正予算(案)について 議案第5号 現任監事の辞任申し出に伴う評議員会で審議する新監事の推薦並びに 評議員選任・解任委員会の委員の選任について 議案第6号 現任評議員の辞任申し出に伴う社会福祉法人緑会評議員選任・解任委 員会で審議する新評議員の推薦について 報告第1号 千寿苑外観木柵取替工事の入札結果報告 報告第2号 パソコン等機器更新の見積徴取結果報告について 報告第3号 理事長の業務執行状況について 1 事業運営上生じた重要事項 (1) 令和4年度上半期事業報告並びに収支予算執行状況報告 (2) 資金運用規程に基づく運用状況定期報告 (3) なでしこ運営規程の改正について (4) 科目間振替報告 2 その他 緑会における新型コロナウイルス感染症の発生状況報告 3 その他

そ の 他

第4回理事会

日 時	令和5年3月23日(木) 午後6時25分から午後8時10分
場 所	介護老人福祉施設千寿苑 地域交流ホール
出席者数	理事5人(欠席1人) 監事2人
議 件	議案第1号 経理規程改正(案)について 議案第2号 就業規則改正(案)について 議案第3号 給与規程改正(案)について 議案第4号 令和4年収支補正予算(案)について 議案第5号 エレベーター修繕工事について 議案第6号 令和5年度事業計画(案)について 議案第7号 令和5年度事業収支予算(案)について 報告第1号 理事長の業務執行状況について 1 事業運営上生じた重要事項 ① 資金運用規程に基づく運用状況定期報告 ② 科目間振替報告 2 その他 ① 外国人技能実習生について

そ の 他

《 評 議 員 会 》

第 1 回評議員会

日 時	令和 4 年 6 月 9 日 (木) 午後 6 時 3 分から午後 7 時 22 分
場 所	介護老人福祉施設千寿苑 地域交流ホール
出席者数	評議員 6 人 (欠席 2 人)、理事 5 人、監事 2 人
議 件	議案第 1 号 介護保険業務ソフト及びパソコン等機器更新について 議案第 2 号 マットセンサー式見守り支援システムの導入について 議案第 3 号 千寿苑外観木柵取替工事について 議案第 4 号 令和 3 年度事業報告 議案第 5 号 令和 3 年度収支報告及び監事監査報告 報告第 1 号 令和 3 年度社会福祉施設監査及び介護保険実地指導結果報告 報告第 2 号 介護サービスに係る業務管理体制の整備に関する結果報告 報告第 3 号 外国人技能実習生について 報告第 4 号 緑会新型コロナウイルス感染の対応並びに PCR 検査等の 実施状況報告 そ の 他

第 2 回評議員会

日 時	令和 4 年 11 月 17 日 (木) 午後 6 時から午後 6 時 40 分
場 所	介護老人福祉施設千寿苑 地域交流ホール
出席者数	評議員 6 人 (欠席 2 人)、理事 3 人、監事 1 人
議 件	議案第 1 号 定款の変更 (案) について 議案第 2 号 現任監事の辞任申し出に伴う新監事の選任について 報告第 1 号 現任評議員の辞任申し出に伴う社会福祉法人緑会評議員選任・ 解任委員会で審議した新評議員の選任について 報告第 2 号 緑会における新型コロナウイルス感染症の発生状況報告 そ の 他

《評議員選任・解任委員会》

第 5 回評議員選任・解任委員会

日 時	令和 4 年 11 月 16 日 (水) 午前 9 時 55 分から午前 10 時 10 分
場 所	介護老人福祉施設千寿苑 地域交流ホール
出席者数	外部委員 1 人 監事 1 人 事務局 1 人 理事会 1 人
議 件	議案第 1 号 任期満了に伴う新評議員の選任について そ の 他

4 監査

令和3年度決算監査

日 時 令和4年5月18日(木) 午後2時00分~午後4時00分

場 所 千寿苑 会議室

出席者数 監事2人

監査結果 (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

5 令和4年度法人運営の概要

1 「筋力を落とさない」ためのサービスの提供

利用者の状態に応じた訓練を、各部署において実施しました。座位のとれる方、寝たきりの方に合わせて内容を実施したり、身体的な部分だけでなく、嚥下体操や食事の接種状況により栄養状態を把握し、BMI（体格指数）の適正化につなげたり、施設によって器具を活用したり、散歩や畑作業などをおして、筋力の向上維持につなげました。年2回～4回測定し、その結果を数値化することで、全体的に筋力の維持につながりました。

しかしながら、年間をおして本人の意欲を継続するためには、個々の状態や思いに合わせたメニューを提供していくことが求められ、今後の課題となっています。

2 認知症・障がいを持つ方への対応

認知症や障がいを持つ方の理解の為に、職員が知識を深めるための研修会を行いました。中でも、特にユマニチュード（その人らしさ）によるケアの推進を行いました。基本である「見る」「話す」「触れる」「立つ」を意識しながら対応して、観察や調査を行いながら、その情報を皆で共有し、関わる職員全員が対応できるように実施しました。

しかし、コロナ禍の中、職員や利用者が感染したことに伴い、思うような行事や計画が実施できずに、中止となったこともあり、いろんな状況下においても、どのように関わっていくなども含めて、検討していくことが求められています。

3 接遇マナーのスキル向上

コロナ禍ということで、ご家族と接する機会も少なかったことから、職員間での言葉使いや利用者に対する関わり方において、現状はどうか、自分自身や周りはどうに感じているかなど施設内で検討する場を作り、相手からどう見えたり感じたりしているのかを検証し、改善に努めました。

今後は、直接面会や外部からの人と接する機会が増えると思われるので、身だしなみや言葉使いだけでなく、日頃から相手からどう見られているのかを意識して、対応することに心がけるよう、進めていきます。

4 人材育成

コロナ禍で外部研修が少ない中、学んだ事を全体に伝える勉強会の実施やミーティングをおして、個々ではなく全体的にスキルアップするための機会をつくり、人材育成に取り組みました。

また、3名のミャンマー外国人技能実習生に加えて新たに、3名のインドネシア外国人技能実習生を迎えて6名に対して、日本語によるコミュニケーションや介護技術の向上するよう育成することで、法人全体の人材確保にもつながりました。

5 感染症や災害への対応力強化

新型コロナウイルス感染予防の対応が求められる中、利用者や職員が感染したことにより、サービス提供の中止や人員不足になるなど、運営に大きな影響がでました。しかしながら、職員のやりくりなど緊急時の対応を協力して実施するなど、今後につながる機会ともなりました。また、この経験を活かして、感染対策の訓練を実施するなど、今後の災害時の運営の参考とすることができました。

次年度は、BCP（事業継続計画）を策定することが義務化されていることから、法人内で検討しながら策定につなげていきます。

6 年度別法人事業毎の利用者実績数

1 千寿苑(介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)) ※平成24年3月21日より50名から80名へ増床、平成27年3月21日より80名から98名へ定員変更

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用延べ人数	32,966人	30,550人	33,181人	30,421人	30,545人	29,634人	27,291人	30,393人
稼働率	92.2%	85.4%	92.8%	85.0%	85.1%	84.6%	76.3%	85.0%

2 千寿苑(短期入所生活介護(ショートステイ)) ※平成24年3月21日より10名から20名へ増床、平成27年3月21日より20名から2名へ定員変更

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用延べ人数	2,171人	2,496人	3,303人	3,562人	3,016人	2,375人	2,207人	2,238人
稼働率	296.6%	341.9%	452.5%	487.9%	412.0%	325.3%	302.3%	306.6%

3 せんじゅ(通所介護(デイサービス)) ※平成14年10月1日開設 平成30年4月1日より30名から25名へ定員変更

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
営業日数	309日	294日	294日	291日	294日	294日	296日	289日
利用延べ人数	7,902人	7,197人	6,480人	6,133人	6,344人	6,639人	6,380人	6,034人
稼働率	85.2%	80.6%	73.5%	84.3%	86.3%	91.1%	96.2%	83.5%

4 なでしこ(通所介護(デイサービス)) ※平成24年3月21日開設 定員20名、平成25年8月1日より20名から30名へ定員変更、令和4年10月1日より30名から25名へ定員変更

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
営業日数	309日	297日	307日	305日	308日	307日	309日	300日
利用延べ人数	7,301人	6,936人	7,356人	7,364人	7,267	6,272人	6,440人	6,156人
稼働率	78.8%	77.4%	79.9%	80.5%	78.6%	68.1%	69.5%	74.9%

5 やくしの里(認知症対応型共同生活介護(グループホーム)) ※平成19年4月1日開設 定員9名

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用延べ人数	3,274人	3,265人	3,242人	3,243人	3,257	2,958人	3,268人	3,273人
稼働率	99.4%	99.4%	98.7%	98.7%	98.9%	90.0%	99.5%	99.6%

6 たかしの里(小規模多機能型居宅介護施設) ※平成25年7月1日開設 登録定員25名

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
月平均登録者数	22.5人	21.7人	23.2人	22.8人	22.8人	23.8人	23.8人	21.9人
登録率	90.0%	86.7%	92.7%	91.2%	91.0%	95.0%	95.3%	87.7%

7 各事業の報告

I 千寿苑（入所・短期入所）

令和4年度目標に対する自己評価

部署 介護老人福祉施設 千寿苑

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
1. 腕上げや足上げなどの体操を行い、筋力の低下を予防する ・ 実施内容 ○座位の取れる方 →腕上げ、足上げ、立位練習 ○寝たきり状態の方 →腕上げ (挙上の高さを決めておく)	① 実施可能と思われる利用者の立位及び下肢挙上保持と握力を測定 ② 測定結果を基に対象者を抽出し、毎日体操を実施 ③ 体操内容は事前に定め、レクリエーション時に必ず実施する ④ 対象者は半年毎に立位及び下肢挙上保持と握力を測定し、結果を集計 ⑤ 体操の意欲につなげるため、評価測定結果を集計したグラフを各居室に掲示	B	<ul style="list-style-type: none"> 実施する時間を決めて、対象者の筋力低下予防体操を毎日実施した結果、一年前と比べ低下している様子は見られず身体機能は維持出来ている 測定結果の集計は終了している。前期は測定結果を集計グラフ化して掲示したが、年度まとめのグラフ化は年度末の時点では未完成 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度は利用者個々の状態に合わせた内容の体操も取り入れる 個々の体操内容や定期的な測定結果を職員に見える化し、筋力低下予防を意識して取り組めるようにする 利用者が体操への意欲を継続出来るように検討しながら実施していく
2. 口腔体操を行い嚥下機能の維持に努める	① 1日に行う口腔体操の回数を増やして、毎日実施 ② いーとみる用紙を使用し、カンファレンス時に多職種で嚥下機能について評価	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎日、昼食時やレクリエーション時、おやつ時に口腔体操を実施した。実施回数を増やした事で、利用者が口腔体操に参加する機会が増えた いーとみる用紙を使用することで、嚥下だけでなく食事状況全般について見える化でき、食事介助時の留意点についても話し合う事が出来た 	<ul style="list-style-type: none"> 寝たきりの利用者にも目で見てわかるように複数人で関わるようにしたい 次年度はいーとみるソフトを活用し、継続して食事状況を評価していく予定

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和4年度目標に対する自己評価

部署 介護老人福祉施設 千寿苑

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
3. コミュニケーションを図る際は、ユマニチュードを意識して関わる ・ ユマニチュードに関する研修会 ・ コミュニケーションの基本についての研修会 (3つの基本： 傾聴・共感・受容)	① 毎日ミーティング時にユマニチュードの4つの柱を唱和した ② ユマニチュードとコミュニケーションの3つの基本について研修会を実施 ③ 研修後に意識して取り組めたかの自己評価と評価者無記名の他者評価を半年毎に実施	B	・ 4つの柱を唱和することで、利用者に接する際の意識に繋がった ・ ユマニチュード4つの柱とコミュニケーション3つの基本について、自己及び他者評価を実施した。 結果、年度末には殆どの職員に改善が見られた ・ 他者評価を行うことで、自分の評価との違いを確認してもらった	・ コミュニケーションの取れる利用者だけでなく、反応の少ない利用者にも随時声掛けしたり、優しく触れたりするようにする

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和4年度目標に対する自己評価

部署 介護老人福祉施設 千寿苑

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
<p>4. 進んで挨拶を行うなど、好感を持ってもらえるような接遇マナーに留意していく</p> <ul style="list-style-type: none"> 身だしなみの点検 ご家族や外部の方に接する際、対面時や電話対応時などを主に各自留意していることについて意見交換を行う 満足度調査の実施 	<p>① 身だしなみの基準に沿って半年毎に他者が点検</p> <p>② グループワークを行い留意点等について意見交換し記録する。参加できなかった職員には記録を回覧</p> <p>③ 1月から2月にかけて利用者のご家族に満足度調査を実施 回収・集計後、結果を職員に回覧、併せてご家族へ郵送</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみについては、おおむね良好な結果であった グループワークでは、自分の対応を振り返る機会となり、自分とは違う接し方や対応方法を聞き、参考になったとの意見が出た 不満な点に着目し、どうすれば改善できるのか、利用者の生活の質に繋がるかを話し合った。なお、ご家族への調査結果にコロナ禍で直接会えない事で、施設でどんな生活をしているのかわからず不安等の意見があった 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に好感を持ってもらえるように意識した対応を心掛ける コロナ禍以降、家族と対面する機会が少なかった 現在、直接面会を再開しており、面会の時に普段の状況を詳しくお伝えする。その際は丁寧な対応を心掛ける

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和4年度目標に対する自己評価

部署 介護老人福祉施設 千寿苑

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
5. 事故防止予防や感染症の研修会を行い、知識の幅を広げ安全安心に繋げる <ul style="list-style-type: none"> ・ 事故予防についての研修会 ・ 感染症についての研修会 	① 事故予防を意識して業務が行えるよう、安全対策委員会による令和3年度のアクシデントレポートの集計を基に研修会を実施 ② インフルエンザやノロウイルス等主な感染症についての研修会を実施 ③ 感染災害等対策委員会と連携し、感染が発生したと想定した初期対応訓練を実施 ④ 感染対応時の物品と設置方法を写真に撮り、発生時どの職員でも対応できるよう準備	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の「気づき」について記録し、週に一度職員間で対応について話し合いを実施 ・ 机上で研修会を行い、季節性の感染症について振り返ることで感染発生に備えた ・ 実際の行動を伴うシュミレーション訓練を実施した。初めての訓練のため、殆どの職員がマニュアルに沿った行動ができていなかった ・ 物品の保管場所を1ヶ所に決め、写真に撮り見える化した事で、訓練に参加できなかった職員も、後日物品設置の訓練ができた 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一週間毎の話し合いを継続し事故予防に繋げたい ・ 令和4年度の安全対策委員会の集計結果との比較検討 ・ 次年度も訓練を実施して発生時に備える

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価 : A100点~90点、B89点~75点、C74点~60点、D60点以下)

令和4年度 千寿苑入退所状況

【入所】

入所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	1	2	1	0	0	0	0	0	2	0	1	0	7
女性	3	1	5	1	2	0	3	2	1	0	3	2	23
合計	4	3	6	1	2	0	3	2	3	0	4	2	30

【入所前所在地】 在宅： 13人 医療機関： 9人 その他施設： 8人

【退所】

退所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5
女性	3	2	1	2	2	1	3	1	2	3	2	3	26
合計	5	3	2	2	2	2	3	1	2	3	2	3	31

【平均年齢】 90.3歳（ 82歳～ 104歳）
 【退所理由】 逝去： 24人 長期入院： 4人 その他： 1人
 【平均在籍日数】 4年 4ヶ月（最長 20年3ヶ月、最短 0年3ヶ月）

令和5年3月31日現在 入所利用申込状況

	自宅	病院	老人保健施設	グループホーム	その他施設	その他	計
要介護1	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	0	0	0	0	0	0	0
要介護3	16	3	1	4	0	0	24
要介護4	8	5	2	1	1	0	17
要介護5	3	3	1	4	2	0	13
合計	27	11	4	9	3	0	54

【性別】 男性； 14人、女性； 40人
 【平均待ち期間】 1年 4ヵ月（最長；11年1ヵ月、最短；0年0ヵ月）

令和4年度 千寿苑内部研修実績

月	研 修 名	実施場所	参加者数
4月	筋力アップの効果及び効果的な食べ物 イートミールカードの使い方	2階・3階ダイルーム 担当：管理栄養士	48名(看護・介護)
5月	ユマニチュード①	2階・3階ダイルーム 担当：副主任	46名(看護・介護)
5月	食中毒予防について	2階・3階ダイルーム 担当：管理栄養士	45名(看護・介護)
5月	ユマニチュード②4つの柱	2階・3階ダイルーム 担当：副主任	47名(看護・介護)
6月	誤嚥を発見～AEDの使い方①	2階ダイルーム 担当：主任	25名 (看護・2階介護)
6月	事故防止について	2階・3階ダイルーム 担当：生活相談員	45名(看護・介護)
7月	看取り及び精神的ケアについて	2階・3階ダイルーム 担当：看護師	45名(看護・介護)
7月	食事介助(体験)	2階・3階ダイルーム 担当：主任・管理栄養士	45名(看護・介護)
9月	コミュニケーションを上手にとるには？	2階・3階ダイルーム 担当：副主任	45名(看護・介護)
9月	ご家族や外部の方への対応時の留意点	2階・3階ダイルーム 担当：主任	44名(看護・介護)
10月	感染症について	2階・3階ダイルーム 担当：感染等災害対策委員会	48名(看護・介護)
10月	身体拘束及び虐待について	2階・3階ダイルーム 担当：身体拘束廃止委員会	45名(看護・介護)
11月	誤嚥を発見～心肺蘇生について②	2階・3階ダイルーム 担当：主任	43名(看護・介護)
12月	プライバシー・マナー	2階・3階ダイルーム 担当：主任	42名(看護・介護)
12月	感染予防について①	2階・3階ダイルーム 担当：感染等災害対策委員会	46名(看護・介護)
1月	感染予防について②	2階・3階ダイルーム 担当：感染等災害対策委員会	41名(看護・介護)
1月	高齢者に起こりやすい病気 (褥瘡、心疾患など)	2階・3階ダイルーム 担当：看護師	44名(看護・介護)
2月	身体拘束及び虐待について	2階・3階ダイルーム 担当：身体拘束廃止委員会	40名(看護・介護)
2月	感染シミュレーション訓練	2階・3階フロア 担当：感染等災害対策委員会	39名(看護・介護)

※研修日の研修内容をタブレットで撮影。

研修日に参加できなかった職員は、タブレットと資料にて実施

令和4年度 千寿苑外部研修実績

日付	研修名	実施場所	参加者
8月～9月	介護支援専門員更新研修	Zoom	1人
9月～10月	介護福祉士養成実習施設実習指導者特別研修	七尾市	2人
10月	家族支援	Zoom	1人
11月	介護職種の技能実習指導員講習	金沢市	3人
12月	感染症予防研修	Zoom	3人
12月	家族療法（家族面接を学ぶ会）	七尾市	1人
12月～3月	介護支援専門員実務研修	Zoom	1人
1月	介護事業所におけるBCP策定のポイント	Zoom	3人
2月	養介護施設従事者等における高齢者虐待防止について	Zoom	3人
2月	家族システム論（家族面接を学ぶ会）	金沢市	1人
3月	生活相談員研修	Zoom	1人
3月	権利擁護について考える	志賀町	1人
10月～3月	眠りスキャンを用いた見守り支援システムの活用事例（数例）	Zoom	交代

令和4年度年間行事等事業実施報告

月	事業(行事)	地域交流	見学
4月	・花見(桜)		・社福バス
5月	・花見(つつじ)ドライブ		・社福バス
6月	・お祭り会館見学		・社福バス
7月	・ドライブ(帰宅希望者対応) ・夏まつりみたいに ちょっと楽しまん会 2022		・千寿苑周辺のゴミ拾い ・社福バス
8月			・社福バス
9月	・敬老会		・社福バス
10月	・せんじゅえん食堂		・一本松公園清掃
11月	・紅葉ドライブ(永光寺)		・朝日小学校通学路掃除 ・社福バス
12月	・バー寿 Kotobuki		
1月	・初詣(苑内)		・除雪 ・社福バス
2月	・豆まき		・社福バス
3月	・焼き芋喫茶		・社福バス

Ⅱ 栄 養 課

令和4年度目標に対する自己評価

No. 1

部署 千寿苑栄養課

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
I. 筋力を落とさない。 1. 体重減少を予防する 2. 摂食機能を維持する	<ul style="list-style-type: none"> 4月に入所職員へ筋力を落とさない食事についての研修会を実施 随時、摂取状況の確認と誤嚥リスクの高い方の食形態の見直しを行った 3月中旬にケアスプーンに変更 5月から「い〜とみる®」に基づいたチェックシートを開始。これを活用し、カンファレンス時に多職種で対応策等を検討 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「い〜とみる®」を活用することで、摂食機能低下が疑われる方に対して、多職種で観察するようになり、話し合いの機会を設けることができた 入所では14%、通所では5%の方がBMI低値および1年で3%以上の体重減少があった。その都度食事調整し、摂取量が少ない方は栄養補助食品を用いて、可能な限り栄養量がとれるよう努めた 	「い〜とみる®」ソフトの活用と状況や対応策等その結果の周知

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和4年度目標に対する自己評価

No. 2

部署 千寿苑栄養課

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
II. 認知症・障がいを持つ方への対応 1. 食事の満足度を向上させる 2. 摂取状態や食事内容の情報共有	<ul style="list-style-type: none"> 5月、11月に嗜好調査実施 百寿祝い膳の提供（3名） 菜園野菜の調理と提供（19回） 共有フォルダにてグループ管理栄養士間で入所者様の情報や対応等を共有 緊急時、特に新型コロナ対応時の食事提供 	A	嗜好調査の結果、食事満足度は入所89⇒93%、通所平均94⇒96%と前年度より向上している。お祝い膳やイベント食、菜園野菜の提供など、普段のお食事から特別な日のお食事まで季節を感じ、おいしい楽しいと思っただけけるよう努めた。また、利用者に新型コロナ感染が拡大した際や、厨房職員が同時に複数名感染した際に、各所の協力の下、途切れることなく安全に食事提供ができた	継続して実施する 緊急時マニュアルの見直し
III. 人とのかかわりを大切にし、サービスを提供する 3. 人として、専門職として誠実に対応する	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集、報告連絡相談し、速やかな対応に努める ご家族へ電話や栄養ケア経過記録、手紙送付等での状況説明 	A	ご家族へは直接電話で、または経過記録や手紙を通して状況を伝えている。ご家族より「本人の姿や様子がしっかりと伝わりました」とお言葉をいただいている	継続して実施する

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和4年度年間行事等事業報告書

部署名：栄養課

月	事業(行事)	地域交流	ボランティア・見学
4月	通所：クッキング (桜もち)		
5月	通所：クッキング (いちごのトライフル)		
6月	通所：クッキング (よもぎだんご) 百寿祝い		
7月	入所：百寿祝い、夏祭りイベント 通所：クッキング (ももの水ようかん)		
8月	通所：クッキング (あんみつ) ⇒中止 夏祭り⇒中止		
9月	通所：クッキング (おはぎ) 敬老会 (和菓子提供)		
10月	入所：千寿苑食堂 通所：クッキング (さつまいもとりんごの茶巾)		
11月	通所：クッキング (たこやき)		
12月	入所：バー寿 (喫茶) 通所：デコレーションケーキ		
1月	通所：クッキング (ゆずの水まんじゅう)		
2月	通所：クッキング (さつまいもトリュフ)		
3月	入所：百寿祝い、焼き芋作り 通所：クッキング (ぼたもち)		

令和4年度 事業所外研修実績

日付	研修名	実施場所	参加者数
R4. 4. 18 R4. 4. 28	筋肉をつける・維持するための食事のポイント	2階・3階ダイルーム	鎌田裕子 (講師)
R5. 2. 21	入所(2階)BCP訓練	2階	鎌田裕子

令和4年度 事業所内研修実績

日付	研修名	実施場所	参加者数
R4. 7. 13	第3回 能登摂食嚥下栄養研究会	恵寿総合病院	鎌田裕子
R5. 2. 14	令和4年度 管内栄養士研修会	zoom	鎌田裕子
R5. 2. 26	令和4年度 災害支援栄養士教育(伝達講習)研修会	オンデマンド配信	鎌田裕子

Ⅲ せんじゅ・なでしこ（デイサービス）

令和4年度目標に対する自己評価

部署 せんじゅ・なでしこ1

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
1. 筋力を落とさない	① その方に応じた訓練の実施 ・ベット上⇒四肢挙上・起き上がり・立位訓練 ・離床可能者⇒座位・立位訓練・足上げ運動 ・歩行可能者⇒時間をかけてゆっくり座る ② 食事摂取量の確認・採血データの確認 ③ 利用者様のADL・筋力チェック⇒改善するためのアセスメント作成⇒目標を設定し、結果について 評価・考察	B	<ul style="list-style-type: none"> せんじゅ継続利用56人中 握力 5以上低下 1人 維持 45人 5以上改善 10人 なでしこ継続利用36名中 握力5以上低下 2名 維持 34名 個々に応じた訓練を行っている レクの時間に体操をしている 座るときはゆっくり座るよう声掛けしている 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を共有し、介護職も同じ目標に向かって、入浴時やトイレ誘導時など、意識して取り組む 食事量や体重などは、見える化して全員が把握し、対応を検討する 筋力チェックも、RH担当のみでなく、全職員が関わり、見える化し、アセスメントに関わっていく

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和4年度目標に対する自己評価

部署 せんじゅ・なでしこ2

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
2. 認知症・障害を持つ方への対応	<ul style="list-style-type: none"> ユマニチュードによるケアの推進 見る⇒笑顔で水平に目を合わせる 話す⇒ゆっくりとポジティブな言葉で優しく話す 触れる⇒ゆっくりと手のひら全体で背中などに優しく触れる 立つ⇒歯磨き・更衣などの機会に、40秒立位保持の時間を増やす 3か月ごとに自己評価 	B	<ul style="list-style-type: none"> 介助の前に、しっかり目を合わせ、ゆっくりと笑顔で話しかけができるようになってきた。 言葉がけもポジティブな内容を意識できるようになった。立位保持も行っている。 なでしこ自己評価 改善3名・維持8名 せんじゅ自己評価 維持10名 	<p>帰宅願望のある方に、特定の職員が関わることが多いので、パート含め全員が対応できるよう、情報共有する</p>
3. 人との関わりを大切に、サービスを提供する	<ul style="list-style-type: none"> 接遇マナーについて、自己チェック表で3ヶ月毎にチェックし、他者評価を受ける 接遇マナーの勉強会に参加する 職員同士が声をかけ合い、コミュニケーションをとりながら連携し、お互いが補う（ミーティングで全員で方法を話し合う） 新型コロナウイルス感染予防のための訓練や研修を行う 地震災害対応のためのマニュアルを作成する 	B	<p>接遇マナー なでしこ改善 5名・維持 6名 せんじゅ改善 2名・維持6名 接遇マナーの勉強会を行い、伝達講習も行った ミーティングで話し合い、統一している 職員同士声を掛け合い、連携している。 新型コロナ対策勉強会を行った 地震災害対応マニュアル作成中</p>	<p>接遇チェック表で、できていない箇所について、スローガンで啓蒙しできるように取り組む</p> <p>勉強会は受け身の職員が多いので、全員が伝達講習をできるように、取り組んでいく</p> <p>言葉がけは、一人でもできていない人がいると、千寿苑全体の印象に繋がるという意識を持ち、お互いに声掛けを行う</p>

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和4年度 通所介護内部研修等実績

日付	研修名等	場所	参加者数
9/14	早期退職をさせない新人研修の心得	ダイルーム	全員
10/25	身体拘束廃止勉強会	ダイルーム	全員
11/29	コロナ感染対策勉強会	ダイルーム	全員
12/12	嘔吐物の処理について	なでしこ	新人職員
12/15	認知症の事例について	デイケアダイルーム	嶽・宮崎・高橋
2/6	接遇勉強会	ダイルーム	全員

令和4年度 通所介護外部研修等実績

日付	研修名等	場所	参加者数
10/12	ストレスマネジメント研修	Zoom	高山
8/19	新型コロナウイルス感染症	Zoom	蔵本
9/16	福祉職場の接遇リーダー養成研修	Zoom	大橋
12/7～3/3	ケアマネ更新研修B	Zoom等	坂井
12/13	感染症対策の勉強会	Zoom	戸潤

令和4年度年間行事等事業報告書 部署名：デイサービスセンターせんじゅ

月	事業(行事)	地域交流	ボランティア・見学
4月	お花見ドライブ		
5月	母の日カーネーションプレゼント 新緑ドライブ		
6月	初夏のドライブ		
7月			
8月			
9月	敬老会		
10月	秋のドライブ		
11月	紅葉ドライブ		
12月	年忘れ会		
1月	初詣		
2月	節分の集い		
3月	ひなまつりの集い		

令和4年度年間行事等事業報告書 部署名：デイサービスセンターなでしこ

月	事業(行事)	地域交流	ボランティア・見学
4月	お花見ドライブ		
5月	母の日カーネーションプレゼント		
6月	百寿の集い		
7月	初夏のドライブ		
8月			
9月	敬老会		
10月	運動会 紅葉ドライブ		
11月	ドライブ		
12月	年忘れ会		
1月	新年会		
2月	コンサート		
3月	ひなまつりの集い		

IV やくしの里（グループホーム）

令和4年度目標に対する自己評価

No. 1

部署 グループホームやくしの里1

計画と方法・取組	1年間の具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
1. 筋力低下予防に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日昼食前の嚙下体操と、3日に1回のゴムバンド体操実施を実施 ・ 下肢筋力低下予防 歩行速度・握力測定 ・ 天気の良い日の坂道昇降運動 *チェックシート作成 ・ 年間を通して農作物栽培のための畑作業 長ネギ、水菜、ほうれん草、トマト、ナス、ピーマン、じゃがいも、大根 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昼食前の嚙下体操は、天気のよい日は日光浴を行いながらほぼ毎日行っている ・ 旧小学校までの散歩を行ったり、天候に応じて室内にてハードル歩行を行う ・ 入居者9名中8名が畑作業に参加され収穫時には喜ぶ顔がみられた 	<ul style="list-style-type: none"> ・ チェックシート作成にて心掛けは出来ていた ・ 体調に応じて行えない人もいた ・ 作る野菜により担当を決めて取り組む
2. ユマニチュードケアの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミーティング時に利用者一人ひとりの意見交換を行う ・ コミュニケーションを取る様に心掛ける ・ 日常生活を通して職員と共に行動する時間を持つ 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミーティング時に利用者一人ひとりに対する意見交換により、ケアの統一を心掛ける環境が整ってきている ・ 1日1回は利用者と席に着き会話するように心掛けている ・ 職員と共にシーツ交換、自室掃除、洗濯物干し、ゴミ出し、茶碗拭きはできている ・ 苑外内行事の全員参加はできている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の衛生管理を行いながらお手伝い支援を継続

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和4年度目標に対する自己評価

No. 2

部署 グループホームやくしの里

計画と方法・取組	1年間の具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
3. 接遇マナーを見直しスキルアップを行う	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接遇マナーの自己評価・他者評価を行う 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8月と1月に接遇マナーと自己評価・他者評価を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミーティング時に言葉使いについて意見交換を行う
4. 苑内外研修と YouTube を活用した勉強会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年4回の身体拘束勉強会 ・ 感染対策勉強会 <li style="padding-left: 20px;">5月新型コロナウイルスについて <li style="padding-left: 20px;">コロナウイルス感染予防の継続 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体拘束勉強会を5月、9月、10月、2月に実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苑外研修には参加できていなかった。次年度は参加できるように調整を行う
5. 感染や災害への対応強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員、出勤時体温と酸素飽和度測定実施 ・ 入居者、毎日の体温測定と酸素飽和度測定 <li style="padding-left: 20px;">*職員玄関前での手指消毒の徹底 ・ 災害に備える事で介護サービスを継続する <li style="padding-left: 20px;">* 7月に断水を想定した訓練実施 <li style="padding-left: 20px;">* 物品・備蓄品の確認 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体調管理継続にて体調の変化に気づき蔓延防止は出来ていた ・ 食事作り、トイレ使用時の想定を中心とした訓練を実施。水の確保に関し、ポリタンクでは重く扱いにくいと意見あり。ペットボトルに変更し使用した ・ 1月に水道管凍結等による断水が発生したが、訓練を生かし、事業を継続することができた 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も継続する ・ 2月に予定していた停電訓練は出来ていないことから、BCP訓練も含め次年度にすべての訓練を必ず実施する

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価 : A100点~90点、B89点~75点、C74点~60点、D60点以下)

令和4年度 事業所内研修実績

日付	研修名	実施場所	参加者
5/31	身体拘束	リビング	全員
5/31	感染対策	リビング	全員
9/30	身体拘束	リビング	全員
10/31	認知症勉強会	リビング	全員
11/30	身体拘束	リビング	全員
2/28	身体拘束	リビング	全員

令和4年度 事業所外部研修等実績

日付	研修名	実施場所	参加者
12月～3月	介護支援専門員実務研修	Zoom	石垣初江

令和4年度年間行事等事業報告書

部署名： グループホーム やくしの里

月	事業(行事)計画	地域交流	ボランティア・見学
4月	9日 花見	大泊朝市 不参加	誕生会 1名
5月	4日 でか山見学 30・31日 菖蒲湯	大泊朝市 不参加	誕生会 1名
6月	1日 海ドライブ 15日 避難訓練	大泊朝市 不参加	誕生会 1名
7月	4日 七夕まつり 2日 災害訓練(断水)	大泊朝市 不参加	
8月	12日 花火 3日 流しそうめん	大泊朝市 不参加	誕生会 1名
9月	18日 お彼岸おはぎ作り 21日 ワックス掛け	大泊朝市 不参加	
10月	18日 避難訓練	大泊朝市 不参加	
11月	22日 紅葉ドライブ	大泊朝市 不参加	
12月	22日 クリスマス会 19・20日 ゆず湯 31日 おせち作り・年越しそば	大泊朝市 不参加	
1月	7日 七草粥	大泊朝市 不参加	誕生会 1名
2月	3日 節分	大泊朝市 不参加	誕生会 2名
3月	2日 ひな祭り 19日 お彼岸おはぎ作り 15日 ワックス掛け	大泊朝市 不参加	誕生会 2名

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790200032		
法人名	社会福祉法人 緑会		
事業所名	グループホーム やくしの里		
所在地	石川県七尾市黒崎町ヲ部 109 番地		
自己評価作成日	令和5年2月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓この URL をクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	エイ・ワイ・エイ研究所		
所在地	金沢市無量寺5丁目45-2 サンライズⅢ106号		
訪問調査日	令和5年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは七尾より氷見方面へ向かう国道160号線沿いの海と山に囲まれた自然豊かな場所にあり、現在では能越道大泊ICに近く交通の便も良くなりました。春には敷地の隣にある桜が見え、ウグイスやキジの鳴き声が聞こえ、四季の移り変わりを楽しむことができます。キッチンにはオープン式対面キッチンで、入居者様が気軽にキッチンに立つことができ、中庭では畑で野菜づくりを行っています。入居者様全員での外出や季節ごとの行事を多く取り入れ、また個別の要望にもできる限り対応させていただき、お一人お一人が楽しみのある生活を送ることができるよう支援させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは「利用者を個人として尊重し、その人らしい生活を支援します」を理念として掲げている。又、毎年、法人の方針に基づき、ホームの単年度目標(認知症を理解しその人自身を尊重する、筋力の維持等)を定め、四半期毎に実践状況を評価・確認しながら、日々の支援に取り組んでいる。日常生活場面では理念に沿い、利用者がその人らしく暮らせるよう、「本人の楽しみ・役割」を重視した介護計画を作成し、個別支援に繋げている。計画更新時は「意向確認用紙」を家族に送付(返信用封筒同封)し、家族の要望も介護計画に反映するようにしている。医療面では同グループ内のクリニック医師による、訪問診療中心の健康管理体制を整えている。クリニック医師とは24時間の連携体制(随時の相談、緊急時の往診可)が確保されている。又、医療面以外でも母体の特養施設をはじめとする法人全体の十分なバックアップ体制(重度化・終末期支援、災害時対応等)が確保されている為、利用者・家族・職員の安心に繋がっている。ホームではコロナ禍でも家族との繋がりが途切れないよう、ホーム玄関先(ガラス越し)で面会できるように配慮したり、感染状況を考慮した上で、時には自宅への外出・外泊も可能としている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)		1. 毎日ある	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない			○	4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)		1. ほぼ全ての利用者が	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人やグループホームの理念とは別に、職員全員で作成した現場の理念があり、事務室内に掲示し確認することで、職員が常に意識して実践に務められるようにしている	「利用者を個人として尊重し、その人らしい生活を支援します」をホーム理念として掲げている。理念は事務所内の掲示やミーティング時の話し合いを通じて、職員への周知を図っている。又、毎年、法人の方針に基づき、ホームの単年度目標(認知症を理解しその人自身を尊重する、筋力の維持等)を定め、四半期毎に実践状況を評価・確認しながら、日々の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会費を納め地域の行事に参加していたが新型コロナウイルスのため交流できていない。3ヶ月に1回やくしの里だよりを地元町会の回覧板に載せていただいている。	地域住民の一員として、町会に加入している。やくしの里便りを町内の回覧版に添付(3ヶ月毎)してもらったり、法人全体の広報誌を全世帯に配布(年1回)し、ホームの活動・役割等を近隣住民に紹介している。コロナ禍の為、現在は控えているが、平時には地域行事(祭礼、朝市、敬老会等)にも積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議(新型コロナ関係で中止になっているが)に町会長・民生委員などに理解をもらう機会としている。また年に1回、法人の広報誌を全世帯に配布して理解や支援をお願いしている。		

4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族代表、町会長、民生委員、行政の方々にホームの実態を報告しており、意見をいただき、今後の課題として取り組んでいる。</p>	<p>コロナ禍の為、家族代表・町会長・民生委員・市担当者に書面(2ヶ月毎)でホームの状況・活動報告等を行っている。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>2ヶ月に一度開催される事業者連絡会には人員の不足の為参加出来ておらず。市への毎月状況報告は行われている、なにか不明な事があれば連絡し協力関係を築くようにしている。運営推進会議に市担当者の出席してもらい他にも人員不足や対応についても相談している。</p>	<p>毎月、市への状況報告を行う際に市役所に出向き、担当者と情報交換を行っている。運営上の疑問点があれば、随時、市担当課に相談し、協力関係を築いている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束の適正化のため身体拘束委員会を設置し3カ月に1回実施している。身体拘束は行われていないがスピーチロックに関しては、その都度ミーティング時に話し合いを行っている。玄関の扉は夜間のみ防犯上施錠している。</p>	<p>身体拘束適正化委員会(職員全体参加)を3ヶ月毎に実施している。特に何気に出てしまうスピーチロックに関して職員間での話し合い・研修を重ね、意識づけを図っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>月1回のミーティング時などに言葉遣いや接し方についての振り返りと意見交換はできている。入居者と家族、入居者と職員の関係には十分注意を払っている。</p>	/	/
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修等へは参加出来ておらず。オンラインリモートでの研修案内あるも活用できておらず。</p>	/	/

9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は家族が納得するまで、十分な時間をかけ行っている。料金の改定の際は郵送にて事前に案内を送付している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、感染対策にて面会行っていない場合など電話連絡にて、現況についてや今後について相談しやすい体制としている。また、運営推進会議に家族の代表者に参加していただき、その他の会議参加者と共に事業所運営に反映できるように配慮している。	面会時等に家族の意見・要望を引き出せるよう、文書で利用者個々の生活状況(毎月:食事・入浴・排泄・健康面)を伝えたり、やくしの里便り(3ヶ月毎:写真メイン)で暮らしぶりを伝えている。又、無記名の家族アンケート調査を2年毎に行い、運営面の改善に繋げている。家族が本音を書けるよう、送付先を外部評価機関にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段は管理者を中心とし、時には法人も交えた意見交換ができています。毎日の申し送り時や毎月行われるミーティング時に意見交換はできている、その中から緊急性の高い事項や、容易に取り組めるものなどはすぐに取り組み、職員のモチベーションを維持できるように留意している。	管理者も現場業務に従事しており、普段から職員と意見交換を行っている。毎日の申し送りや毎月のミーティング時に職員の意見・提案を吸い上げ、サービスの向上に活かしている。又、管理者が法人本部に要望等を伝える機会(月1回)も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年次年度の事業計画作成時に職員と話し合い担当を決めている。以前は年2回、個人面談を行い意向の確認していたが出来ていない。職員の向上心に繋がる取り組みについては、法人全体の取り組みとして何が出来るか検討していく。		

13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に研修カードを配布し、自己研鑽を奨励している。現状として人員不足の面から研修機会が取れていない状況がある。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回の事業者連絡会に人員不足より参加できていない。今後は人員を確保して参加できるようにしていきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談の段階で、本人や家族より十分に話を聴くようにしている。入居初期の段階では特に会話するなど気を配り、信頼関係を築けるよう努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や契約時にも十分話を聴き、利用中も本人・家族との関係を築きながら、本心が聞けるよう努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期利用の頃は、居宅の介護支援専門員に状況を報告し相談しながら対応している。また、入居前に本人・家族に面接し意向を確認している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重し、良い意味での家族のような関係に努めている。また、日常生活の中でお手伝いできる能力を生かせる機会(洗濯物たたみなど)つくって役割を持ってもらうようにしている。		

19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の 立場におかず、本人と家族の絆を 大切にしながら、共に本人を支えて いく関係を築いている</p>	<p>毎月入居中のご様子を用紙にて記 入と写真を郵送にてお知らせしてい る。受診の付き添いを依頼したり少 しでも関わりを持っていただしてい る。今年度はコロナウィルス感染予 防の為、家族交流会、クリスマス会 など家族参加の行事は行っていな い。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の 支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染 みの人や場所との関係が途切れな いよう、支援に努めている</p>	<p>家族以外の面会は感染対策の為、 原則中止としている。コロナウィルス 感染の状況を配置医と相談し、自宅 へ外泊される方もいる。電話などの 希望のも応じて対応している。</p>	<p>コロナ禍でも家族との繋がりが途 切れないう、ホーム玄関先(ガラス 越し)で面会できるように配慮してい る。又、コロナの感染状況を考慮し た上で、時には自宅への外出・外泊 も可能としている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人 ひとりが孤立せずに利用者同士が 関わり合い、支え合えるような支援 に努めている</p>	<p>世話好きの入居者が、他の入居者 の世話をすることがあり、その時は 職員は見守りしている。トラブル時は 双方に注意し、どちらの味方になら ないようにしている。また、職員が間 に入り、難聴の入居者同士が話せる よう配慮している。相性の検討と随 時席替えを実施。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、 これまでの関係性を大切にしながら、 必要に応じて本人・家族の経過 をフォローし、相談や支援に努めて いる</p>	<p>同法人の施設へ入居された本人へ の面会を行っている。退居時には家 族に何かあれば相談させていただく 旨お話ししている。</p>		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本位での検討を前提としている。日常の会話で利用者の思いを聴くように心がけている。本人の性格やこれまでの生活などを話題にして会話が続くよう努めている。	利用者のそばに寄り添い、日常会話の中で利用者の思いを聴くようにしている。又、1:1の場面(入浴時、夜間帯等)で、利用者の本音を聴くようにしている。利用者の思い・発した言葉は日々の記録に「 」書きで残し、職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接や契約時に情報収集し、入居後は本人との会話や家族からその都度聞きだし把握に努め記録に残して、共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の毎日の申し送りにて、個人の状況を把握し、できること等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	見直し時には必ず本人と家族に要望を聞き、ミーティング時や日々の業務で発見したことを話し合い、反映できるよう努めている。また、本人の担当介護職員と介護支援専門員が話し合いをするようにしている。	その人らしく暮らせるよう、「日常生活での楽しみ・役割」を重視した介護計画を作成し、日々の支援に繋がっている。計画更新時は「意向確認用紙」を家族に送付(返信用封筒同封)し、家族の要望も介護計画に反映するようにしている。担当介護職員とケアマネが話し合い、モニタリングを行っている。	より利用者本位の計画となるよう、ニーズ欄には利用者の思い・言葉(〇〇したい、〇〇が好き等)をそのまま明示される事を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や本人の言葉を具体的に記載しているが、まだまだ細かな記載が抜けていることもあるので細かく記録するようにしていきたい。記録は介護計画見直しに活かされている。		

28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族が仕事で受診の付き添いができないときは、職員が対応している。理容店や買物、自宅への外出等、個人の対応に勤めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>本人の居宅支援事業所の介護支援専門員や家族と情報の交換や報告を行ない、連携を図っている。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医の往診や受診が継続的に行われている。また、入居者により、直接かかりつけ医への受診を希望される場合は対応している。</p>	<p>同グループ内のクリニック医師による、訪問診療中心の健康管理体制を整えている。クリニック医師とは24時間の連携体制(随時の相談、緊急時の往診可)が確保されている為、職員・利用者・家族の安心に繋がっている。専門医(耳鼻科等)への受診は家族に依頼しており、家族を介して主治医と連携を図っている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>職場内に看護師1名がおり、申し送り時に入居者の体調を報告したり病状や体調で確認したい事など医療面の相談をしている。入居者の体調に変化があるときは医師への上申を行っている。</p>		

32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師、相談員、看護師などと十分に連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの実績はなし。重度化、もしくは終末期に関しては法人全体でサポートする形となっていることを入居時に説明している。身体状況変化時には本人・家族の意向を伺い、管理者、医師、家族を交えて方針を検討している。	終末期支援は同グループ内の病院・又は母体の特養施設で対応する方針となっており、契約時に予め家族に説明している。重度化によりホームでの生活が難しくなってきた場合(個浴での入浴が不可等)は三者間(管理者・医師・家族)で協議し、今後の方向性を定めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフミーティング時に、対応の話し合いを行っている。また、実際に急変や事故が発生した後職員同士で意見の交換を行ない以後の対応についての知識の習得に努めている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	マニュアルを作成し、連絡体制ができていて、事故発生時の役割分担を取り決めしてある。施設近隣に居住する職員は1名が対応できるようにしている。	急変時の対応マニュアルやクリニック医師への連絡・相談体制を整えている。コロナ禍以前は法人全体の緊急時対応研修(AED使用方法等)に参加していた。	利用者の生命に関する緊急事態(誤嚥・窒息時、心肺停止時等)に適切に対応出来るよう、計画的・継続的なロールプレイ訓練の実施が期待される。
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	同法人、同系列の病院、クリニックで支援体制が確保されている。	同グループ内のクリニック医師や病院、母体の特養施設をはじめとする法人全体の十分なバックアップ体制が確保されている。	

37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	近隣に居住する職員が1名を確保している。緊急時には同法人で近隣職員の対応も可能となっている。また夜間でも担当医師に連絡できるようになっている。	1ユニット＝夜間職員1名の配置となっているが、緊急連絡網によるクリニック医師・管理者への相談体制や近隣在住職員(法人全体)の応援体制を整えている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、ホームで避難訓練を実施している。地域自体が高齢化のため協力体制を築くことより法人全体での支援体制を整えている。停電時など当事業所で対応できない場合に連携を取れる様にしている。	防災マニュアルや防火設備一式を整え、火災を想定した総合避難訓練(年2回)を実施している。コロナ禍の為、現在はホーム独自で訓練を行っているが、平時は消防職員立ち会いのもとでの訓練も実施している。実際に被災(停電、断水等)した場合には、母体の特養施設による十分な支援体制(例:停電時は特養に全員避難して、デイの場所でお弁当を提供等)が確保されている。防災グッズや備蓄品はリスト化・保管し、定期的に内容点検を行っている。	以前実施していた、近隣の小規模多機能施設(他法人)との合同避難訓練の再開(＝連携強化)が期待される。
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	避難時の荷物を整備している。また、水・紙類・毛布・オムツ類の備蓄があり、スプリンクラー・火災報知機・通報装置の設備を完備している。停電時に炊飯できるようカセットコンロを準備。同法人内の連絡体制も整えている。停電時の照明が課題。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応に配慮している。ミーティング時などに皆で注意しあい、改善するよう話し合いを行っている。	利用者個々のプライドを傷つけないよう、言葉づかい・対応に配慮している。不適切な言動があれば、職員間で注意喚起している。基本、名前で〇〇さんと呼びしている。又、トイレ誘導は耳元で行う、入浴時は同性介助の希望に応じる、申し送りは事務所内で名前を呼ばずに行う等、プライバシーにも注意を払っている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるようなオープンクエストやこまめな声掛けに努めている。		

42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先する のではなく、一人ひとりのペースを 大切に、その日をどのように過ごし たいか、希望にそって支援している	その時の思いや体調、本人のペー スに合わせ自由に活動しているが、 居室で休んでばかりにならないよう 活動する機会がもてるよう声掛けし ている。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれ ができるように支援している	ホームで希望により散髪できるように しているが、本人の希望や馴染みの 美容院がある場合は、家族の協力を 得て利用できるように配慮してい る。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一 人ひとりの好みや力を活かしながら、 利用者と職員と一緒に準備や 食事、片付けをしている	好みは個々に合わせ形態も状態に 合わせている。行事食(正月のおせ ち・七草・恵方巻・お彼岸・ひな祭り・ 土用の丑の日・ながし素麺・クリスマス 会・年越しそば)やホームで採れ た野菜、普段とは違うたのしみのある 食事を提供している。今年度はコロ ナウィルス感染のため外食は中止。 代替としてオードブルの取り寄せ を実施し楽しんでもらっている。	スーパーで購入した旬の食材やホ ームの畑で採れる新鮮な野菜等を 用い、季節感ある手料理を提供して いる。家事が得意な方には準備・後 片付け時に役割(皮むき、皿拭き 等)を担ってもらっている。食事が楽 しみとなるよう、季節毎の行事食(土 用の丑の日、お取り寄せオードブル 等)を楽しむ機会も設けている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が 一日を通じて確保できるよう、一人 ひとりの状態や力、習慣に応じた支 援をしている	食事は献立表を確認し、同じ食材 やメニューにならないよう配慮してい る。夏場はイオンサポート飲料の活 用と水分は出来る限り摂っていただ けるよう好みの水分を提供してい る。体重に応じて食事量の調整。同 法人の管理栄養士から助言をもらっ ている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよ う、毎食後、一人ひとりの口腔状態 や本人の力に応じた口腔ケアをして いる	毎食後、一人一人声掛けし口腔ケ アを実施している。義歯の洗い残し がある方は後で職員が洗いなおし 対応している。		

47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助を要する入居者には排泄表に記録し、リズムや行動を把握し適宜誘導を行なっている。また日中は必ずトイレにて排泄を行なっている。ただし、身体状況によっては夜間の転倒防止の為、1名ポータブルトイレを使用。	日中は「トイレでの排泄」を基本としている。誘導が必要な方には個々の排泄間隔・サイン(急に立ち上がる等)を把握し、適宜お誘いの声をかけている。夜間帯は身体状況を考慮し、転倒リスクの高い方にはポータブルトイレも活用してもらっている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食生活を目標(特に朝食)とし、牛乳の提供や便秘気味の方には朝の汁物に食物繊維を入れ、水分と運動を促している。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴日としている。入浴日は4日間設けており当日の体調や気分に合わせている。同性介助を希望される方が増えてきたため勤務表作成上配慮している。医師からの指示がない方に対してはゆっくり時間をかけて入浴している。入浴剤の使用や季節に応じて菖蒲湯、柚子湯を提供している。	週に4日お風呂を沸かし、利用者個々の要望(一番風呂、ゆったりと長湯等)に沿った入浴を支援している。入浴が楽しみとなるよう、数種類の入浴剤を用いたり、昔ながらの季節湯(菖蒲湯、ゆず湯等)を行っている。入浴を拒む場合は無理強いないせず、別の日に改めてお誘いしている。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室、リビング、畳、ソファなど本人が居たい場所、休みたいところでそれぞれ自由に過ごせるようにしている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は職員が管理している。服薬時は必ず確認しており、チェック表にて誰が介助したかチェックしている。また、個人ファイルに薬剤カードを綴っており、いつでも見れるようになっている。内服変更時は申し送り及び、往診ノートに記入、各自確認して症状の変化に注意している。		

52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の性格や生活歴を踏まえ、個々にあった役割を支援している。昨年より畑の拡張、種植え、草むしり、収穫の実施。パズルや計算問題など自由な時間に取り組めるようにしている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は地域の行事の参加など機会作っていたがコロナウイルス感染予防の為、外出は散髪時と近隣ドライブのみとなっている。	コロナ禍の為、積極的な外出支援(買い物、外食等)は控えている。但し、気分転換を兼ね、気軽に戸外に出る機会(日向ぼっこ、畑作業、近隣ドライブ等)を設けている。フレイル予防の為、散歩にも出向いている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了解を得てお小遣い帳にてホームで管理している。買物時本人より希望される、消耗品を購入したりしている。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話することもあるが、「家族より電話させないでほしい」と要望される方があり調整している。家族からの電話には直接話ができる方はしていただき、難聴の方には職員が間に入ることでやりとりを行っている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じていただけるよう、玄関に季節に応じた花や飾りつけを行っている。天気の良い日はウッドデッキにて日向ぼっこを行っている。	感染対策の一環として、リビングの温度・湿度管理や換気に配慮している。又、大型の加湿・空気清浄機(複数台)を設置している。リビングの大きな窓から自然の風景(山の景色、畑の様子等)が眺められ、季節感を十分に味わう事が出来る。将来の利用者ニーズに備え、ホーム内のWifiも整備されている。	

57		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用スペースと居室は別であり、プライバシーには配慮されている。自由に利用者同士過ごせるようになっている。</p>		
58		<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に馴染みの物をお願いしているが、家族の思いで持ち込まれない方や、本人が外してしまうため設置していない居室もある。本人の動線を配慮し配置に努めている。</p>	<p>居室はリビングと離れた場所に位置しており、プライバシーが確保された造りとなっている。居室で居心地よく過ごせるよう、使い慣れた物(テレビ、タンス等)や安心出来る物(家族の写真、趣味道具等)を持ちこんでもらっている。利用者の動線に配慮し、家具の配置等を工面している。</p>	
59		<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>内部に手すり、杖、老人車と本人の歩行機能に合わせて移動できるような環境になっている、またより分かりやすくする為に居室に名札を掲示、トイレに大きく文字で表示するなど、本人自身で理解し行動できるようにしている。</p>		

V たかしなの里（小規模多機能型居宅介護施設）

令和4年度目標に対する自己評価

部署 小規模多機能型居宅介護施設たかしの里2

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
2. 認知症・障がいを持つ方への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ ユマニチュード（その人らしさ）によるケアの推進 ・ 大切に思っていることを相手にわかるように伝える ・ ご利用者の体の状態や変化、好みを細かく把握する ・ ご利用者1人ひとりが自分らしく生活できるよう支援する ・ 周りを観察し、安全安心を提供する ・ スキル向上に努め信頼される施設づくりをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己目標表を作成し実行、年2回評価を行う ・ 担当制の担当職員は9月、2月、職員会議で取組みを発表する ・ 軒下マップを作成し、利用者一人ひとりが自分らしく生活出来るよう支援する ・ 医療介護の専門知識の勉強会を実施する 	D	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自で取り組んでいるが評価しているが、フィードバックするまでには至っていない ・ 個人の情報をその都度掲示板やミーティングで共有し、支援することができている ・ 軒下マップ作成は中止した ・ 研修会を計画通り開催することができず、より専門的な学習をする機会を設けることができなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己目標の評価を個々へフィードバックし、より良い援助につなげることができるようにする ・ 研修会や勉強会を定期的に行い職員のスキル向上を促す

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和4年度目標に対する自己評価

部署 小規模多機能型居宅介護施設たかしの里3

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
3. 接遇マナーのスキル向上 <ul style="list-style-type: none"> 挨拶や言葉づかいを正し、安心感を与える 	<ul style="list-style-type: none"> 接遇勉強会を年2回実施する 年2回自己評価を行う 	C	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染で研修が出来なかった 自己評価表を作成し個々で取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内開催の研修計画を作成する。また、開催に際し、時間を日中にし、複数回同様な内容を開催することで全職員が学習する機会を設ける 施設外研修について、可能な限り参加できる機会を設ける
4. 感染症や災害への対応力を強化する <ul style="list-style-type: none"> 緊急時に慌てることなく的確な対応が出来るよう計画的な訓練や研修を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症BCP作成 感染予防具の脱着 	D	<ul style="list-style-type: none"> 感染症BCPがまだ作成されてない 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症および災害BCPを次年度内に策定し、研修及び訓練を実施する

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和4年度目標に対する自己評価

部署 小規模多機能型居宅介護施設たかしの里4

計画と方法・取組	具体的な取り組み	評価	振り返り	次期への繰越や課題など
5. 施設で取り組んでいる内容を家族や地域の方にもっと知って貰い理解して頂く <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動を通じ利用拡大を図る ・ ご利用者、ご家族、地域との信頼関係を構築する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の施設内での行事や出来事を LINE でご家族や地域の方に発信する。また LINE のやり取りで意見や要望、連絡など伝えやすいようにする。 ・ 9月に地域向け広報誌を発行する 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の行事や様子、食事メニューを随時ラインで発信している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続して取り組む
6. その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ 野菜作りを行う ・ 施設の周りをきれいにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間を通した野菜作りを行い、利用者に供給する ・ 施設周辺の清掃や花壇やプランターで景観を良くし、地域の方や利用者に和んでいただく 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間を通して野菜作りを行っている ・ 花壇や施設周辺の草刈り、清掃を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続して行う

※評価について ⇒自己採点方式 (100点満点で評価：A100点～90点、B89点～75点、C74点～60点、D60点以下)

令和4年度年間行事等事業実施報告 たかしなの里

月	事業（行事）	地域交流・ボランティア	見学対応・職員研修
4月	11・12日 お花見ドライブ 22日 誕生会		
5月	4日 青柏祭見物 16・17日 新緑ドライブ 21日 誕生会 25日 夜間想定避難訓練		
6月	6・7日 しょうぶ湯		
7月	2日 誕生会 7日 七夕まつり 8日 シェイクアウトいしかわ 参加		
8月			
9月	19日 敬老のお祝い 23日 おはぎ作り		
10月	20日 日中想定避難訓練 26日 誕生会		
11月	16・17日 紅葉ドライブ 21日 誕生会		
12月	22日・23日 ゆず湯 23日 クリスマス会&誕生会		
1月	24日 誕生会 26日 安浄寺住職による法話		
2月	2日 節分豆まき 14日 バレンタインチョコプレゼント 誕生会		
3月	15・16日 お祭り会館見物 22日 ぼた餅作り	2日 エプロンシアター (池崎町 生長様)	

令和4年度 事業所内研修実績

月	研修名	実施場所	参加者数
5月	9日～12日 感染予防について 24日～26日 接客マナーについて	たかしなの里	全職員
7月	19日～23日 身体拘束虐待防止について	たかしなの里	全職員
8月	22日 新型コロナウイルス対策について	たかしなの里	全職員

令和4年度 事業所外研修実績

参加研修会なし